第14号:2015年9月

（目次）

・先人から引き継いだ知の宝庫　Ｐ１
・第 19 回静岡県図書館交流会　Ｐ２
・原画展・古本市　Ｐ３
・ひびきの会をご存知ですか？　Ｐ４
・心正しければ筆正し　Ｐ５
・図書館からこんにちは
　市内図書館ニュース　Ｐ６
・リレーエッセイ・「ほっとコーナー」Ｐ７
・これからの事業日程ほか　Ｐ８

先人から引き継いだ知の宝庫

静岡図書館友の会　顧問　杉山　佳代子

思えば長女が小学生の頃、近くに家庭文庫（小島さん宅）が開設され、時々私も娘と一緒におじゃましました。「文庫」と言うと静岡市には今もご活躍中の草谷桂子さんはじめその頃何人かのお母さんたちがあちらこちらで自宅を開放し、子どもたちに本をせっせと用意し貸し出していました。

「文庫のおばさん」と呼ばれた彼女たちは、みんな本と子どもたちが好きで温かく接しながらしかも地域社会とのつながりを大切に活動していました。この何ら見返りを求めない純粋な女性たちの歩みは公立図書館がまだ充実していない時代の貴重な歴史であり、称賛に十分あたいすると思っています。

この文庫で、私は『つしま丸のそうなん―沖縄の子どもたち』（金沢嘉市著）や同じく金沢氏の『人間にくずはない』の本に出会いとても感銘を受けたことを思い出します。

平成８年孫が誕生し、教職を続ける娘に代わってじいじ・ばあばの子育て再登壇となりました。孫をだっこして絵本を読んであげた至福のひとときは何物にもかえがたく幸せ。その中で特に『しろくまちゃんのほっとけーき』（若山けん著)は孫の大のお気に入りでした。「ぽたーあん　どろどろ」「やけたかな」「まあだまだ」「しゅっ」「くんくん」とフライパンの上に焼けていく様子の擬音をいつのまにか、すらすらと口に出すので思わず夫と歓声をあげてしまい、幼い子どもと絵本のつながりは何とすばらしいことだろうかとあらためて気づかせてもらいました。

さて、図書館は先人から引き継いだ知の宝庫と言われています。静岡市の図書館をよりよくするためのこれまでの市民レベルの活動は実に地道に真摯に歩んで来たと思われます。

単に行政の政策に反対するのではなく、民意を反映し、手を携えて充実を願う人達が超党派で協力し合い、要望書一枚にも熱い議論と時間を費やして、今日の図書館にたどりついていることを考えると何とありがたいことでしょうか。

さらに図書館の委託問題回避に向けての提言、そして学校図書館の充実や雇用の問題にも及んでいます。“当たり前”のように受けているサービスは“当たり前”の裏で尽力している人達がいるからです。幸い田辺市長や教委関係者も図書館行政にご理解ある方々とのことで、私は直接活動していませんが市民の一人として静岡のより良い図書館発展へとエールを送り続けたいと思います。

杉山佳代子顧問

第19回静岡県図書館交流会参加報告

富士宮市立中央図書館 司書 高瀬一樹

「お菓子は食べたら無くなっちゃうけど、絵本は読んでも後に残るから好き。」

本交流会でご講演いただいた鎌倉幸子さんが、カンボジアの難民キャンプで現地の子どもから聞いた言葉だそうです。あらゆる物資が不足する厳しい環境でも、書物や物語が人々のために果たせる役割はあるのだ、という希望を見出すことができる発言だと思います。

そして鎌倉さんは、2011 年の震災で被害を受けた気仙沼市の司書の方からも「食べ物は無くなるけれど、本は読んだ人の記憶に残り続ける」という発言を聞いたとのことです。さらに、ご講演の中には「本が持つ『変わらなさ』や『普遍さ』が、震災で日常を奪われた子どもたちに安らぎを与えている」というお話もありました。

本と人との関係には、場所や時間を問わない普遍的な価値があるということでしょう。その一方で、「成長する有機体」である図書館には、時代の流れや環境に応じて柔軟に変化していくことも求められます。

鎌倉さんの講演に先駆けて活動報告をしていただいた皆さんのお話からは、普遍的な図書館の機能を尊重しつつも、各館が果たすべき役割を把握して特色ある活動を行っていることが窺えました。

「全点購入を続けることに意義がある」として、県内図書館における児童資料の充実と選書する職員の資質向上を目指す、県立中央図書館の子ども図書研究室。

病院による高齢者支援ネットワークの支援や、読書団体や学校図書館員等が集まる交流会の開催など、地域の人同士のつながりを増やす取組を積極的に行う浜松市立佐久間図書館。駅舎と一緒の建物であるという特徴を活かし、観光客向けの地域紹介も行っているそうです。

そして、ご自身の子どもの頃からの図書館への思いや、仕事として図書館と向かい合う姿勢をお話ししてくださった、東伊豆町立図書館の内山館長。司書として働くことの意味を改めて考え直す機会となり、気持ちが引き締まりました。

こちらの交流会には初めて参加しましたが、県内で様々な立場から図書館の発展に尽力される皆さんのお話を伺えたことは、普段の業務だけでは一つの場所に籠りがちな自分にとって大きな刺激となりました。

鎌倉さんが震災後の岩手で移動図書館を始めた際、用意できた車両は軽トラックにカラーボックスを載せた簡素なものだったそうです。しかし、巡回先には本を求め多くの人が集まり、仮設住宅で暮らす人々の憩いの場になっていたそうです。設備や蔵書も重要ですが、本を求める気持ちと、それに応えて本を届けたいと思う気持ちこそが、図書館の「根っこ」の部分なのかもしれません。

図書館員が変えるべきものは何か？守り通すべきものは何か？　これからも様々な価値観に触れ、図書館にとって大切なものを追及していきたいと強く感じました。

講師の鎌倉幸子さん

※ 第１９回静岡県図書館交流会
2015.6.20（土）、静岡県立中央図書館にて実施。50 人強の参加者あり。

「絵本をひらくと」展の準備をしながらおもうこと

静岡市美術館　学芸員　安岡真理

「おはなし」と「絵」といった、至ってシンプルな要素で構成される絵本。それが印刷され、絵本というかたちをなし、ページがめくられることで物語は進み出す。そのページをめくる手を動かしているものこそ、声に出された「ことば」だ。ことばにはリズムがあり、声に出した瞬間、そこに感情的な色合いが添えられる。それが絵と一体となったとき、絵本の絵はいきいきと動き出す。

前回の絵本原画展で、静岡図書館友の会の皆さんの読み語りを見て聞いた際、感じたことがある。絵本の読み手やその読み方によって、同じ絵本の絵でも違うように見えたのだ。その瞬間、私は絵本が「複合芸術」といわれる所以を体で理解することができた。

さらに絵本は、言葉を耳で聞き、絵を目で見ているだけではない。子どもたちは、五感のすべてを使って絵本を読んでいるように思う。そしてその絵本体験は、五感を伴っているからこそ、人生の最初の頃の記憶として、深く私たちの心に刻まれる。

印刷することで失われてしまう質感や筆跡、繊細な色づかい、素材感…この絵本原画のみが有する感覚的に訴えかけてくる力強さは、私たち一人ひとりの五感を伴った絵本体験を呼び起こすのだろう。

H25「はじめての美術　絵本原画の世界 2013」の様子

中央図書館・古本リサイクル市報告

市民エコワーク　佐久間美紀子

	時　　間	持込（人）	持込（冊）	持出（人）	持出（冊）
7/24（金）	12：00～17：00	99	2,930	181	1,582
7/25（土）	9：30～17：00	74	2,120	217	1,882
7/26（日）	9：30～13：00	69	1,167	133	1,124
合計		242	6,217	531	4,588

中央図書館での古本リサイクル市は、上記のように大変な盛況のうちに終了しました。3 日間に延べ一万冊以上の本が動いたことになり、古紙回収に出されたはずの沢山の本が、また新しい読者に巡り合う機会を得ました。本を読み捨てにしない、新しい“シェアの文化”が、ここから静岡に定着していってほしいと思います。

また、持ち込まれた本の中から静岡県関係の本『しずおか百地蔵』『伝承あそびハンドブック』『新家康探訪』『静岡の百山』など 39 冊を、地域資料として図書館に寄贈しました。すでに書店では入手できないものもあり、古本市というフィルターを通すことで貴重な資料の発掘が可能になるという面も、この活動の見逃せない効用です。

電子書籍やネット検索が一般化する時代にあって、これからの図書館が力を入れるべきなのは、そうした全国的なネットワークに乗らない地域資料の収集だと言われています。古本リサイクル市はこの面からも図書館への協力ができるのではないかと思っています。

ボランティアスタッフは常時募集中です。いっしょに古本市を楽しみませんか。

「ひびきの会」をご存知ですか？

ひびきの会代表　稲垣洋子

「静岡市立図書館音訳ボランティアひびきの会」は、文字を読むことが不自由な方のために、音訳・録音・対面朗読・ダビング等の奉仕活動をするボランティア団体です。（会員 84 名）活動拠点を静岡市立中央・南部・西奈・長田各図書館に置き、障害者サービス担当職員と連携を保って活動しています。ひびきの会は、1984 年に中央図書館の開館に伴い、公募に因って活動を始めてから 30 年が経ちました。図書館の裏方として，目立たず地道に活動を続けてきたひびきの会を紹介したいと思います。

ひびきの会が設立してから 15 年くらいはテープ図書を制作してきました。ところが 1997 年 DAISY（デイジー）図書というものが開発されました。これは一枚のＣＤに一冊の本が録音できるという優れもので、専用のプレクストークという読書器で聞くと普通に本を読むようにページが飛んだり、しおりを付けたりすることができます。今ではたくさんの視覚障害者の方に利用されています。

ひびきの会では前年度までにテープ図書の制作を中止し、録音図書も毎月発行している定期刊行物も現在では総てを DAISY 形式で制作しています。定期刊行物は「テレビ・ラジオガイド」「旅と本」「リビング・コラム集」「西奈だより」「国民生活」「ノーマライゼーション障害者の福祉」などとありますが、なかでも日ごとの情報がたくさん入っている「おもしろ暦」が人気です。この「おもしろ暦」は、30 年の活動を続けている平山朋子さんが２ヶ月分ずつ年６回制作・発行している声の暦で現在 11 年目になります。祝日、民俗行事、誕生日の花と花言葉、誕生石と星座、静岡の日の出日の入り時刻、静岡市の行事、静岡市視覚障がい者協会からのお知らせ、ひびきの会の音訳した録音図書紹介など内容満載です。

もうひとつの活動「対面朗読」も現在に至るまで長く続けている大切な活動です。利用者が直接図書館に来て、今読みたい本をボランティアの生の声で聴いていただきます。また、静岡視覚特別支援学校での、小・中・高の各生徒さんとの朗読の時間も 10 年目になりました。

最近では、ただ文字を読むだけではなく「写真」「絵・イラスト」「図・表」の説明や広告等あるものは全部読むという流れになってきましたので、「音訳」の幅が広がり勉強することが増えてきました。利用する方の立場にたっての活動が続きます。

このようにひびきの会はこれまで多くの会員が、図書館利用者の情報支援の活動をしてまいりました。これも歴代の図書館館長を始め職員の皆様方との連携のおかげです。今後もひびきの会会員のたゆまぬ努力で、この活動を続けていきたいと思っています。

ある日の対面朗読風景

「心正しければ筆正し」

書道教室主宰　鈴木美佐

「お願いします」と子どもたちは元気な声で書道教室に入ってきます。書道塾を始めてから２５年になります。現在は生徒数も減少し、週１回の稽古は、一人ひとりに目が届き楽しんでやっています。

生徒が大勢の時や夏休みには、中学生のお姉さんたちが幼児や小学生に絵本の読み聞かせの時間（書道塾なのに読書タイム？　）を作ってくれました。お迎えに来た母親たちも後ろにそっと座って聞いていました。本の選択は読む人にお任せでリクエストされることもありました。

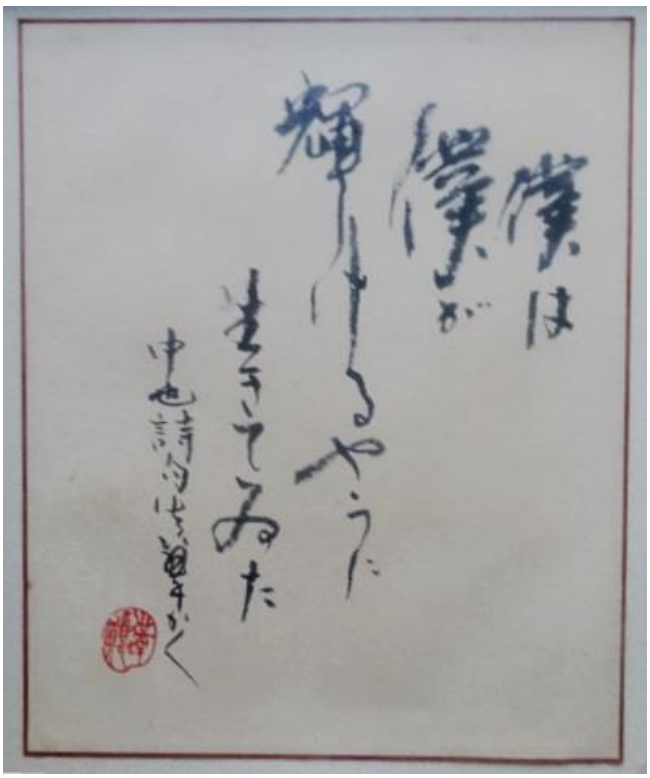
聞いている子どもたちも読んでいる子どもたちも表情が豊かで幸せそうでした。それを眺める私も温かい気持ちになりました。

「心正しければ筆正し」と言いますが、本を読むことは感性が豊かになり、集中力も養われ、書写にも生かされます。

良寛は、姿は貧しくとも精神は崇高であり、寺を持たずに生涯托鉢で通しました。良寛の書はそんな姿勢から生まれたのだと思います。一点一画に清潔な魂が込められ、爽快な風韻が見られます。漢詩・歌人としてもすぐれていました。

今から７０年前、戦争中は薬も手に入るのが困難な時代でした。戦争が終わってからも、私は爆弾が怖くて外に出るとお腹が痛くなり幼稚園にも行けませんでした。そんなとき、本好きな父はよく本を読んでくれました。腹痛は不思議に治ったものです。

本を読む人も聞く人も、読書は心の鍛錬になり、将来、人の話が聞けたり、また聞いてもらえる人になると思います。書道塾に来ている子どもたちも字を書くだけではなく、読書を楽しむ体験も含めて「書道塾」での様々な人との交流や体験が良き思い出になり、いい大人への１歩になるよう私も願い、努力したいと思っています。



鈴木美佐（真翠）作

図書館から　こんにちは

中央図書館麻機分館へいらっしゃいませ

中央図書館麻機分館　森西正好

今年の４月の人事異動で６年ぶりに図書館にもどってまいりました。

以前は中央図書館２年、南部図書館５年在職。今回麻機分館と、どれも私の自宅のある大浜麻機線のバス路線で通える範囲にあり、通勤にはとても助かっています。

それでは麻機分館のご説明をさせていただきます。この館は平成 20 年６月 13 日開館で、今年の６月で８年目を迎えました。１階が市民サービスコーナーと麻機分館。２・３階が麻機地区の地域・学校連携施設の複合施設になっております。

この複合施設は麻機小学校の余裕教室を地域の生涯学習・交流の場として再整備したものです。

麻機分館は静岡市内初の「分館」となりますが（その後平成 21 年９月５日美和分館開館）、図書館システムのネットワークにより、他の静岡市立図書館と同様、すべての静岡市立図書館の蔵書を幅広く利用することができます。

当館の利用者の傾向、利用者層につきましては、地元の団塊の世代以上の高齢者層の利用が多く見受けられ、続いて主婦層の利用も多く見受けられます。

高齢者の皆様方には、読みやすいからとのことで大活字本が好まれております。

また、主婦層の皆様方は、料理、手芸をはじめ、お子様のための絵本も多くご利用いただいております。特に、この分館では大型絵本が豊富なためご利用になられる方が多く見受けられます。

この麻機分館のある麻機地区は、市街地から離れた自然豊かで、地元の方々も人に優しい人情味溢れた地域です。どうぞ麻機分館にご来館いただきご利用ください。職員一同お待ちしております。

市内図書館ニュース

英　語　多　読　へ　の　招　待

静岡市立北部図書館

静岡市立北部図書館では、今春から英語多読資料を約 1200 点導入しました。英語多読とは、辞書を使わずに英語の本をたくさん読み、英語力を身につける方法です。最初は絵本から読み始め、挿し絵の助けも借りながら主人公たちと笑ったり怒ったり、ちょっぴり悲しんだりします。少しずつ本のレベルを上げていき、一定期間続けると、気づかないうちに英文を楽に読めるようになっていきます。国の英語教育推進や英語学習ニーズの高まりを受け、幼児から大人までが楽しめる学習法として当館へ取り入れました。

8 月 2 日(日)には日本多読学会副会長の西澤一先生をお招きして講演会「英語多読への招待」を開催しました。中学生からご高齢の方まで 100 名を超える方が参加をしてくださり、年代を問わず英語多読への関心の高さを感じました。図書館ホームページにも英語多読ページを新たに設け、多読の効果や実践方法などを紹介しています。

各市立図書館カウンターでも英語多読資料のリストをご覧になることができます。ぜひ、図書館で英語読書をお楽しみください。

会員リレーエッセイ

『父からもらった宝物』そして今

元・静岡市立図書館協議会委員　吉岡裕真

父が他界して 27 年が過ぎた。時折、妻が生前の父のことを語る。「お父さんは亡くなる 10 日程前まで１日４時間近く読書をしていた」と。

しかし、父は１度たりとも私に読書の大切さも読書の勧めも語った事は無かった。ところが現在、私は読書を好み日常の中で楽しんでいる。

思えば、父は背中で読書のおもしろさ・大切さを教えたかったのであろうか。ありがたい教えである。

私には現在３人の子供が居るが、そろって読むことが好きな子供たちである。長男は、仕事帰りが夜 10 時近いが、ビールを飲みながら１時間程の新聞読みが毎夜続く。それを見る度に父の面影が目に浮かぶ。

私は数年前に、市の図書館協議会委員として市の図書館運営について「将来どうあるべきかの方向性」についての議論に参加させてもらった。この会で学んだ静岡市の図書館運営のあり方は実に参考になり、多くの認識が身についた。改めて感謝したい。

書物から学ぶもの、そこに係わって「道」をつくる者の姿勢を多く見てきた。そして安定した「わがまちづくり」の底辺がある事にも触れる事ができた。～感謝～

～ しずとも「ほっとコーナー」～

『ゆずられた言葉』

洋裁教室主宰　増田正子

私は四世代に亘る大家族の中で育ちました。その曾祖母・祖母・母の口癖がとても面白く、また時折思いがけず納得する事が多いのです。

大勢の子どもを育て、畑仕事も忙しかった曾祖母は、眠りにつく布団の中で「世の中に、寝るほど楽が有らばこそ」と穏やかな顔で言ったものです。もう１つ、「手付けず頂く」と孫嫁である母の作った料理を感謝して食べていました。ガスも電化製品もない時代、大家族の食事を賄う大変さは想像に難くありません。

又、お付き合いの多い旧家の出でもあった祖母は「義理と褌しゃ、せにゃならぬ」が口癖でした。幼い頃からその姿勢が身についていて、婚家でそれを守ってくれたのだと思います。

舅と二人の姑に仕えた母は「雪隠を先に越されて月を愛で」とよく言いました。大家族の中で常に自分のことを後回しにしてきた母の立場と、それを嫌なこととしない前向きの気持ちが表れているように思います。「物事を悪くとらないで心にゆとりを持て」ということだと私流に解釈し、時折自分を戒めています。

明治、大正、昭和とそれぞれの時代を繋いできた母達の言葉はそれなりに重く厳しい歴史も感じます。

翻って、四代目の私は子どもや孫たちにどんな言葉を残しているのでしょうか。少し気になるところです。

これからの事業日程ほか

■　「絵本を楽しむおはなし会」　※　会場：静岡市美術館　展示室内「絵本の森」
「ちひろ美術館　世界の絵本原画コレクション展　絵本をひらくと」展覧会関連事業

（日程）

- 10 月 17 日（土）　13：30～　14：30～
- 10 月 24 日（土）　13：30～　14：30～
- 10 月 31 日（土）　13：30～　14：30～
- 11 月　7 日（土）　13：30～　14：30～
- 11 月 14 日（土）　13：30～　14：30～
- 11 月 21 日（土）　13：30～　14：30～

※　各回 30 分程度、参加料無料（要観覧券）

Ｈ25「はじめての美術　絵本原画の世界 2013」でのおはなし会の様子

■　2015 しずとしょフェスタ　　※　静岡市立中央図書館と共催

日程：2015 年 11 月 1 日（日）、9：30～16：00

会場：静岡市立中央図書館　〒420-0884 静岡市葵区大岩本町 29 番 1 号

内容：

１階・おはなしｺｰﾅｰ	● ９：30～折り紙おじさんの折り紙教室
	● 13：00～フィルムコートかけ体験【図書館職員】
２階・視聴覚ホール	● 11：00～音楽入りおはなし会・工作【静岡図書館友の会・ねこバス】
	● 14：00～美術館学芸員による講演【静岡市美術館 安岡真理学芸員】
	● 15：00～ブックトーク【図書館職員】
図書館ツアー	● 10：30～【図書館職員】　１３：３０～【図書館職員】
移動図書館車両展示	● ９：30～15：00【図書館職員】

■　2016 年度総会記念講演会

日程：2016 年２月 11 日（木・祝日）

会場：静岡県総合研修所　もくせい会館　〒420-0839　静岡市葵区鷹匠 3-6-1

講師：しりあがり寿（しりあがりことぶき）氏

（プロフィール）　※　ウィキペディアより抜粋

日本の漫画家。静岡県静岡市葵区出身。男性。神戸芸術工科大学特任教授、元横浜美術短期大学、元日本大学藝術学部講師。妻は漫画家の西家ヒバリ氏。代表作は『真夜中の弥次さん喜多さん』、『弥次喜多 in DEEP』など。2002 年 4 月 1 日 朝日新聞夕刊にて 4 コマ漫画『地球防衛家のヒトビト』を連載開始。2006 年 静岡市葵区の PR キャラクター「あおいくん」をデザインする。2014 年 春の叙勲で紫綬褒章受章。

■　お知らせ　：　当会顧問の織田元泰氏が７月４日７７歳で御逝去されました

織田氏は静岡市教育長在職中に市内の小・中学校に学校司書の配置の施策を英断してくださるなど、図書館の発展にご尽力くださいました。また 2008 年に当会発足当初から顧問として当会を温かくご支援くださり、私たちにとっても大変心強く頼りになる存在でしたので残念でなりません。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

静岡図書館友の会会報　No.14　2015.9
静岡図書館友の会　代表　田中　文雄
連絡先：（総務携帯）080-6910-9434
Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：sizutomo2008@yahoo.co.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ：http://www4.tokai.or.jp/sizu.tomo/
（会員数）271 人：2014 年 12 月現在
（表紙イラストデザイン：J.T）

編集後記

・「八月や六日九日十五日」（萩原枯石）毎夏幾度も口にします。3.11 が加わり、R.ブリッグスの絵本「風が吹くとき」を思います。（J.T）
・発表された「70 年談話」主語のないメッセージは人の心に届かない。国会前の若者たちのアピールにはほんとに共感できる。（H.H）
・静岡市美術館に協力して「絵本を楽しむおはなし会」を実施します。「世界の絵本原画コレクション展」と併せてお待ちしています。（T.Y）